

<関東信越> サレジオ工業高等専門学校（私立）

*****断り*****

図や一部文章は当該高専 HP 及び当該高専が作成する資料より引用

サレジオ工業高等専門学校 HP : <http://www.salesio-sp.ac.jp/index.html>

サレジオ高専 2021 学校案内 パンフレット :

http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/pamphlet/2021-pamphlet_salesio.pdf?v=2

サレジオ高専 2021 学校案内 専攻科パンフレット :

http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/pamphlet/2021-pamphlet_ac.pdf

修学上の情報等 - 2019 年度 情報公開 :

<http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2019-disclosure02.pdf>

*アクセス(図1はサレジオ高専 2021 学校案内 パンフレットより引用)

〒194-0215 東京都町田市小山ヶ丘 4-6-8

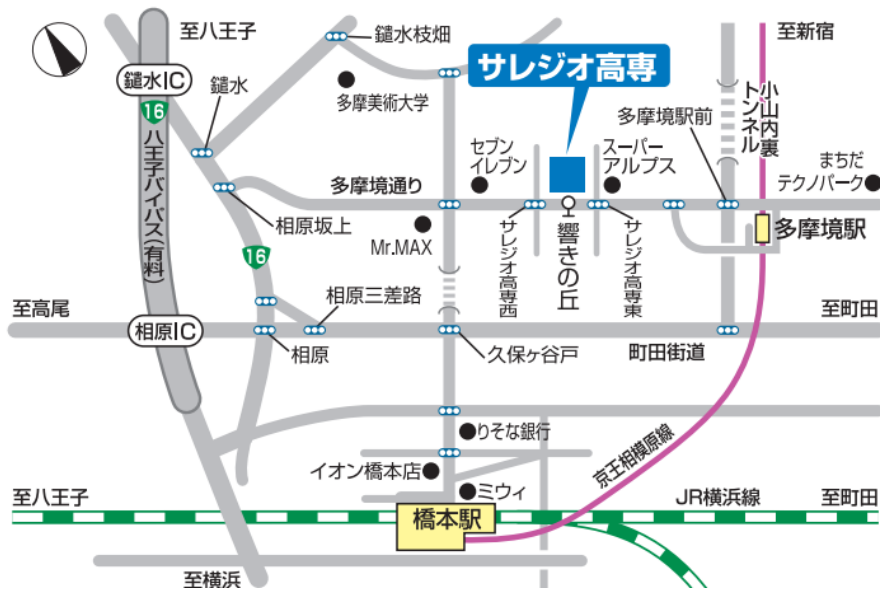


図1 アクセスマップ

*特色 (一部文章はサレジオ高専 HP より、図2はサレジオ高専 2021 学校案内 パンフレットより引用)

- ・ 1934 年に東京都杉並区に帝都育英工芸学校として創立してから幾度かの改称を経て、1967 年に育英工業高等専門学校となった。
- ・ 2005 年に町田市に移転し、現在の4つの学科と専攻科というスタイルで、カトリックの教育精神及び設立母体であるカトリック・サレジオ修道会の創立者ヨハネ・ボスコの教育理念に基づく学校教育を行い、社会に有為な人材を育成することを目的として、さらなる発展を進めている。

- ・本科は全高専唯一のデザイン学科、そして電気工学科、機械電子工学科、情報工学科の4学科編成である
- ・専攻科は本科の電気工学科、機械電子工学科、情報工学科の3学科から学士課程である生産システム専攻を編成している

特色ある4つの学科と+2年の専攻科

本科に設置されている専門学科は、デザイン・電気工学・機械電子工学・情報工学の4つ。5年間を通して、基礎からしっかり学びます。



図2 学科編成

*JABEE への取り組み (一部文章及はサレジオ高専 HP より引用)

「生産システム工学」教育プログラム

本校では、準学士課程の4年次から専攻科2年次までの一貫教育プログラム「生産システム工学」を設定し、国際化にも対応できる技術者教育を実施している。

本プログラムは、最も得意とする専門分野の知識と能力を身につけ、さらに異なる技術分野を理解し、それらの分野の知識を複合融合させる能力を身につけることを目的としている。具体的には、準学士課程で開設されている機械電子工学、電気工学、情報工学の1つの専門分野を学習し、さらに他専門分野の科目も学習する。

育成する技術者像と学習・教育到達目標

本校では設立の当初から、創立者ヨハネ・ボスコの精神に基づき、キリスト教精神に基づく人間観を持った善き職業人を養成することを目標としている。キリスト教精神とは、忍耐、寛容、ゆるし、謙遜、誠実を意味している。

それは技術を通して人類社会に貢献できる人間を育てることであり、社会の華やかな舞台だけではなく、聖書の言葉である「地の塩・世の光」に象徴される見えないところで大地を支える岩塩のように、あるいは周囲を照らす灯台の光のように、社会を支え、人々を幸せにする技術者になることを勧めている。

この本校の伝統に基づき、次に示す (A) ~ (D) の4つの技術者像と、各々の像について、それを達成するための学習・教育到達目標を定めている。

技術者像 (A) :

健全な身体と精神を培い、使命感と奉仕の精神を養い、幅広い教養の元に多面的に物事をとらえ、技術者としての使命を自覚し、実行しうる技術者

達成するための学習・教育到達目標 (A-1) ~ (A-5)

- (A-1) 健康や身体についての理解を深めるとともに、スポーツの実践を通して心身の調和的な発育・発達を促し、健康な心身を培うことができる
- (A-2) 過去の文芸作品や現在の様々な書籍を通して、人々の生活を見つめ、他者の心を理解し、自分の考えを深め、豊かな人間性を培うことができる
- (A-3) 近現代の社会と技術を理解するために、その成り立ちの基盤である日本と世界の歴史を学習し、それらの基礎的事項を把握する
- (A-4) 我が国の文化や歴史の理解とともに他国の文化も認識し、技術に関係する過去の事故等の検討を通して、社会的な責任と使命(技術者倫理)について理解できる
- (A-5) 自然環境と社会との関係に関する基礎的な事項を理解でき、常に使い手の立場に立ったものづくりができる

技術者像 (B) :

自らの専門とする科学技術について、その基礎理論および原理を理解し、それらを問題解決に応用できる能力を備えた技術者

達成するための学習・教育到達目標 (B-1) ~ (B-4)

- (B-1) 数学、自然科学および情報技術に関する基礎知識を身につけ、それらを用いて応用問題に挑戦できる
- (B-2) 自分の専攻した専門分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて工学的な現象が理解できる
- (B-3) 異なる技術分野を理解し、自分の専攻した専門分野の知識と複合する能力を身につける
- (B-4) 実験・実習を通して、実際の工学的現象を理解し、実践的技術を身につけ、問題解決に応用できる

技術者像 (C) :

コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけた技術者

達成するための学習・教育到達目標 (C-1) ~ (C-3)

- (C-1) 国語表現の技法を身につけるとともに、語彙力を高め、場面や状況に応じた言葉、文章、図表などで表現、記述でき、効果的なコミュニケーションができる能力を身につける
- (C-2) コンピュータや情報ツールを使いこなし、情報処理、情報収集等やプレゼンテーションができる

- (C-3) 国際的に通用するコミュニケーションの基礎力、特に英語力を身につけ、生活文化の固有性や多様な価値観のあることを理解できる

技術者像 (D) :

技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする能力を持った技術者

達成するための学習・教育到達目標 (D-1) ~ (D-3)

- (D-1) 自律的に新たなことにチャレンジする心（プロダクトマインド）を育成し、問題解決のために習得した専門知識を応用できる
- (D-2) 問題解決のための計画・実行方法の立案、得られた結果の考察および整理ができる
- (D-3) 実験・実習、卒業研究、特別研究科目の修得を通して、自主的、継続的に学習し、他人と協調して実行できる

JABEE 基準 1 の要件と学習・教育到達目標との関連

本プログラムの学習・教育到達目標は、JABEE 基準 1 の要件(a)~(i)の各内容を満たすように具体化したものである。

以下に、各要件と学習・教育到達目標との関連を説明します。

要件(a) : 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養

学習・教育到達目標(A-2)により、過去の文芸作品や現在の様々な書籍を通して、人々の生活を見つめ、他者の心を理解し、自分の考えを深めることは技術以外の分野も幅広く知ることになり、このことにより社会や環境を含めて地球的視点から多面的に物事を捉える能力が養われていく。

また学習・教育到達目標(A-3)により、世界の歴史を学び、様々な事例を学習することで、地球的視点から過去や将来を踏まえて物事を考えることができるようになり、多面的に物事を考える能力とその素養が身につく。

さらに学習・教育到達目標(A-3)により、多面的に物事を考えるために必要なことの1つとして、あらゆる事態を想定して考えることが有効であり、過去の技術に関する事故等の検討は、これらの能力の涵養につながる。

要件(b) : 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解

学習・教育到達目標(A-3)により、近現代の社会と技術の成り立ちの基盤である日本と世界の歴史を学習することで、技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を知り、ひいては技術者の社会的責任を理解することができるようになる。

また学習・教育到達目標(A-4)により、自国ならびに他国の歴史や文化を学び、とりわけ技術に関する過去の事故等の事例も学ぶことで、技術が社会や自然に対する影響や効果を理解することができ、ひいては技術者の社会的責任についての理解も深まる。

さらに学習・教育到達目標(A-5)により、自然環境と社会との関係に関する基礎的事項を

理解し、常に使い手の立場に立ったものづくりができれば、自ずと技術が及ぼす社会や自然への影響や効果が理解でき、技術者の社会的責任を認識できるようになる。

要件(c)：数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力

学習・教育到達目標(B-1)により、数学、自然科学および情報技術に関する基礎知識を身につけ、それらを用いて応用問題に挑戦していけば、自ずと応用能力が身についていく。

要件(d)：当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力

工学(融合複合・新領域)及び関連のエンジニアリング分野における「専門的知識とそれらを活用する能力」(水準を含む)として、以下の(1)～(4)が要求されている。

(1) 専門工学の知識と能力：

学習・教育到達目標(B-2)により、自分の専攻した専門分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて工学的な現象が理解できるようになれば、自ずと専門工学の知識と能力は身につく。

(2) いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力：

学習・教育到達目標(B-4)により、実際の工学的現象を理解し、実践的技術を身につけ問題解決に応用していく実験・実習の学習を通して、工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力が養われる。

(3) 工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力：

学習・教育到達目標(B-3)により、異なる技術分野を理解し、自分の専攻した専門分野の知識と複合する能力を身につけることで、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力が養われる。

(4) (工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を解決し、適切に対応する基礎的な能力：

学習・教育到達目標(D-1)により、プロダクトマインドを育成し、問題解決のために習得した専門知識を活用する学習により、(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を解決し、適切に対応する基礎的な能力が養われる。

要件(e)：種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力

学習・教育到達目標(D-1)により、問題解決のために習得した専門知識を活用できる学習の中で、種々の科学、技術及び情報を活用すれば、社会の要求を解決するためのデザイン能力の向上に資することができる。

また学習・教育到達目標(A-5)により、自然環境と社会との関係に関する基礎的事項を理解し、その制約条件を考慮したものづくりをすることができれば、社会の要求を解決するためのデザイン能力が身につく。

要件(f)：論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力

学習・教育到達目標(C-1)により、国語表現力を高め、場面や状況に応じて言葉、文章、

図表などを使って効果的なコミュニケーションを身につける学習を通して、論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力が養われる。

また**学習・教育到達目標(C-2)**により、コンピュータや情報ツールを使いこなし、情報処理、情報収集等ができるようになれば、コミュニケーション能力の向上に資することができる。

さらに**学習・教育到達目標(C-3)**により、国際的に通用するコミュニケーションの基礎力、特に英語力を身につけ、生活文化の固有性や多様な価値観のあることを理解できるようになれば、コミュニケーション能力の幅を広げることに資することができる。

要件(g)：自主的、継続的に学習する能力

学習・教育到達目標(D-3)により、高専特有の低学年からある毎週の実験・実習、本科5年次の卒業研究、そして専攻科2年間にわたる特別研究の修得は、自主的、継続的に学習する能力を養う。

また**学習・教育到達目標(D-1)**により、問題解決のために習得した専門知識を応用できる学習は、自主的、継続的に続けなければ身につかず、これらの能力の養成につながる。

要件(h)：与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

学習・教育到達目標(D-2)により、問題解決のための計画・実行方法の立案、得られた結果の考察および整理を通して、PDCA サイクルが経験でき、与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力の養成につながる。

要件(i)：チームで仕事をするための能力

学習・教育到達目標(A-1)により、健康な体や健全な精神は、仕事をする上で全ての基本ですが、とりわけチームで仕事をする場合に必要となる資質である。また団体競技を中心としたスポーツの実践を通して、チームワークの重要性を学ぶことができ、チームで仕事をする能力が養われる。

また**学習・教育到達目標(D-3)**により、実験・実習、卒業研究、特別研究では、目的を明らかにし、計画立案し、実行した後の分析・解析さらには再実験などの過程で、他者との議論やチームを組んで取り組むことが多くなる。このような経験を通して、チームで仕事をするための能力が養われる。

「生産システム工学」教育プログラム履修学生の決定

本校の「生産システム工学」教育プログラムは、電気工学科、機械電子工学科及び情報工学科準学士課程の4・5年次必修科目(選択必修科目を含む)と専攻科の開講科目から構成されている。したがって、教育プログラムは準学士課程の4年次から始まるが、教育プログラム履修者の決定は本校専攻科に入学した時点となり、専攻科学生は全員が「生産システム工学」教育プログラムの履修者となる。

本校専攻科に入学するためには、入学前に本校準学士課程(電気工学科、機械電子工学科および情報工学科)の4・5年次の教育と同等な内容の教育を受けている必要がある。その

ため本校専攻科に入学する前に、この点についての審査がある。

「生産システム工学」教育プログラムの修了要件

本校における「生産システム工学」教育プログラムを修了するためには、以下に挙げる4つの修了要件を全て満たすことが必要である。

生産システム工学修了要件[1]：

本校専攻科の課程を修了し、学位（学士）を取得していること。

本校専攻科の修了要件は、「専攻科において62単位以上を習得すること」である。この62単位には必修科目、選択科目および他大学等での履修科目が含まれるが、「必修科目26単位と選択科目30単位以上」は必ず含まれていなければならない。

生産システム工学修了要件[2]：

「生産システム工学」教育プログラムにおいて、履修の手引「5. 科目構成」に挙げられた科目で124単位以上修得していること。

本プログラムの課程、すなわち準学士課程4年～専攻科2年の4年間で、124単位以上修得しなければならない。既述のように専攻科で62単位以上を修得するため、残りの単位は準学士課程4・5年で修得する。準学士課程4・5年生は、この要件に留意しながら単位を修得すること。専攻科1・2年生は、自身が4・5年で修得した単位数を確認すること。

生産システム工学修了要件[3]：

履修の手引「5. 科目構成」における(3)主たる専攻分野（準学士課程で専攻した専門分野）に関する科目および他分野（主たる専攻分野と異なる分野）に関する科目のうち、他分野に関する科目を修得していること。

この要件は、本校専攻科の「T字教育」を実践し、複合領域の知識を得るためのものである。この要件に十分留意して専攻科の選択必修科目を履修すること。また、他分野に関する科目として履修する学生に対しては、担当教員より自己学習の内容について指示があるので、臆することなく安心して履修してよい。

生産システム工学修了要件[4]：

履修の手引「5. 科目構成」における(3)基礎工学の知識・能力科目には、(3-1)設計・システム系科目群、(3-2)情報・論理系科目群、(3-3)材料・バイオ系科目群、(3-4)力学系科目群、(3-5)社会技術系科目群の5科目群があるが、各科目群から少なくとも1科目、合計6科目以上を修得していること。

*教育理念（一部文章はサレジオ高専HPより引用）

校是1

「神は愛なり Loving Kindness」より

カトリック・ミッションによるキリスト教の精神に基づく教育

校是2

「技術は人なり Human Technology」より

教養と専門を基盤とする総合的人格陶冶に基づく技術者教育

校是 3

「真理は道なり Living Truth」より

理論と実践を両輪に創造性と探究心あふれる人間教育

*教育目的 (一部文章はサレジオ高専 HP より引用)

本校は学校教育法により、深く専門の学芸を教授し、高度の工業専門教育を施し、カトリック・サレジオ修道会の教育理念に基づいて国家及び社会の有為な形成者として必要な資質を養い、個性の確立伸長に努めることを目的とする。(学則第一条)

*教育指針 (一部文章はサレジオ高専 HP より引用)

学校目的の達成のために次の 3 つの教育方針を定める。

1. 社会性豊かな、創造性に富んだ、チャレンジ精神溢れる個性に伸ばす (人間性)
2. 深く専門の学芸を教授し高度の工業専門教育を行う (専門性)
3. 国際社会で活躍できる有為な人材を育成する (国際性)

*アドミッションポリシー(入学者受け入れ方針) (一部文章はサレジオ高専 HP より引用)

(本科)

準学士課程では、ディプロマポリシーに示される「基礎力」、「実践力」、「コミュニケーション力」、「人間性」、「国際性」を備えた技術者を育成するために、以下のような人を受け入れる。

1. 本校準学士課程で学ぶために、中学校等で身に付けるべき ① 知識・技能、② 思考力・判断力・表現力、③ 主体性を持った人
2. 人の優しさを受け入れ、感謝の気持ちを大切にできる人
3. 目標に向かって困難に挑戦する意欲があり、自分のために継続して努力できる人
4. 母国の文化を大切にし、異文化交流に積極的に取り組める人

(専攻科)

専攻科課程では、ディプロマポリシーに示される「基礎力」、「専門力」、「コミュニケーション力」、「人間性」、「国際性」を備えた技術者を育成するために、以下のような人を受け入れる。

1. 本校専攻科課程に入学するまでの学修において、確かな基礎学力及び主体的に学ぶ態度を身につけた人

2. 物事を論理的に考え、それらを文章や言葉で表現できる人
3. 技術者として社会に貢献したい人
4. 基本的なコミュニケーション力を身に付けている人

*入試形態（一部文章はサレジオ高専 HP より引用）

（本科）

(1) AO 入学者選抜試験

出身中学校から出願された志願者のうち、学生募集要項に定める学力を考慮し、かつ、「準学士課程アドミッション・ポリシー（求める学生像）」のいずれかを自発的に実践できる能力を持ち、本校への入学意思が強い志願者を面接、調査書及び入学志願書などにより総合的に評価し選抜する。

(2) 特待推薦入学者選抜試験

出身中学校長から強く推薦された志願者のうち、別に定める推薦基準以上の学力を有し、かつ、「準学士課程アドミッション・ポリシー（求める学生像）」のいずれかを自発的に実践できる能力を持ち、本校への入学意思が強い志願者を面接、推薦書、調査書及び入学志願書などにより総合的に評価し選抜する。

(3) 推薦入学者選抜試験

出身中学校長から強く推薦された志願者のうち、別に定める推薦基準以上の学力を有し、かつ、「準学士課程アドミッション・ポリシー（求める学生像）」のいずれかを自発的に実践できる能力を持ち、本校への入学意思が強い志願者を面接、推薦書、調査書及び入学志願書などにより総合的に評価し選抜する。

(4) 併願入学者選抜試験

出身中学校から出願された志願者のうち、別に定める基準以上の学力を有し、かつ、「準学士課程アドミッション・ポリシー（求める学生像）」のいずれかを自発的に実践できる能力を持っている志願者を学力検査、面接、調査書及び入学志願書などにより総合的に評価し選抜する。

(5) 学力入学者選抜試験

本校を志願する者で、「準学士課程アドミッション・ポリシー（求める学生像）」のいずれかを自発的に実践できる能力を持っている志願者を学力検査、面接、調査書及び入学志願書などにより総合的に評価し選抜する。

(6) 帰国子女入学者選抜試験

帰国子女要項の条件を満たした志願者で、「準学士課程アドミッション・ポリシー（求める学生像）」のいずれかを自発的に実践できる能力を持っている志願者を学力検査、面接、調査書及び入学志願書などにより総合的に評価し選抜する。

(7) 特別入学者選抜試験

出身中学校から出願された志願者のうち、学生募集要項に定める学力を考慮し、かつ、「準

学士課程アドミッション・ポリシー（求める学生像）」のいずれかを自発的に実践できる能力を持ち、本校への入学意思が強い志願者を面接、調査書及び入学志願書などにより総合的に評価し選抜する。

(8) 編入学入学者選抜試験

編入学を志望する学科及び学年の学習に必要な学力、意欲及び適性がある志願者で、かつ、「準学士課程アドミッション・ポリシー（求める学生像）」のいずれかを自発的に実践できる能力を持ち、学力検査及び学科に関連する基礎専門知識の口頭試問、面接などにより総合的に評価し選抜する。

インターネット出願で受け付けている（マニュアルは以下のリンクから）

http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/to_examinee/honka-manual2019v01_1.pdf

（専攻科）

(1) 推薦入学者選抜試験

出身高等専門学校長から推薦された志願者のうち、成績及び人物ともに優れ、「準学士課程アドミッション・ポリシー（求める学生像）」に該当し、かつ「専攻科アドミッション・ポリシー（求める学生像）」のいずれかに合致している志願者を推薦書、調査書、入学志願書及び面接などにより総合的に評価し選抜する。

(2) 学力入学者選抜試験

専攻科課程を志願する者で、「専攻科アドミッション・ポリシー（求める学生像）」のいずれかに合致している志願者を調査書、入学志願書及び面接などにより総合的に評価し選抜する。

*試験状況及び偏差値や倍率（表1は修学上の情報等 - 2019年度 情報公開より引用）

（本科 偏差値 51）

表1 過去5年の志願者数、入試倍率、入学者

年度	入学定員	志願者数(内女子)	倍率	入学者(内女子)	定員充足率
令和元年度(2019)	180	266(53)	1.48	157(38)	0.87
平成30年度(2018)	180	330(57)	1.83	199(35)	1.11
平成29年度(2017)	180	330(41)	1.83	180(26)	1.00
平成28年度(2016)	180	302(43)	1.68	196(29)	1.09
平成27年度(2015)	180	307(50)	1.71	201(30)	1.12

（専攻科 不明）

記載なし

*ディプロマポリシー(卒業・修了認定方針)（一部文章はサレジオ高専 HP より引用）

ディプロマポリシーとは、どのような学生に卒業および修了を認定するのかを定める基本的な方針である。ここでは卒業・修了の要件や、卒業および修了するにあたって身に付け

てほしい能力を示している。本校の準学士課程ではさらにこれらを以下に示す 5 つの要素に結びつけている。

① 知識・理解、② 思考・判断、③ 興味・関心、④ 態度、⑤ 技能・表現
本校では、準学士課程と専攻科課程においてそれぞれディプロマポリシーを定めている。
(本科)

準学士課程では、以下のような能力を身に付け、所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

A.基礎力：

専門分野を学ぶために必要な基礎的学力や技能 (①知識・理解、⑤技能・表現)

B.実践力：

提示された課題に対し解決の道筋を考え、解決のために知識を活用できる
(②思考・判断、⑤技能・表現)

C.コミュニケーション力：

物事を論理的に考え、それらを文章や言葉で表現できる (②思考・判断、⑤技能・表現)

D.人間性：

社会に貢献する上で、技術者としての倫理観を持って行動できる (③興味・関心、④態度)

E.国際性：

多様な文化・価値観を理解し、それらの違いを超えて交流できる (③興味・関心、④態度)

(専攻科)

専攻科課程では、教育目的を実現するために以下のような力や気質を身に付け、所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

A.基礎力：

自身の専門について、常に基礎に還り、新知識を創り出す能力を養う

B.専門力：

より高度な専門領域について、講義、演習、実験や研究を通して知識のみならず、学ぶ力を養うことにより、創造的研究開発能力を得る

C.コミュニケーション力：

発表の場 (学内発表、学会発表) において、論文作成、研究発表 (情報発信)、質疑応答を行い、真の意味でのコミュニケーション力を養う

D.人間性：

学問を通して人間性を養い、良き技術者となる

E.国際性：

国際的な視野を持って研究を行い (文献調査や国際会議参加など)、自身の研究の位置づけを理解するとともにエンジニアとしての国際性を身につける

*カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）（一部文章はサレジオ高専 HP より引用）

（本科）

準学士課程では、ディプロマポリシーに示す能力を身に付けさせるために、5年一貫教育を念頭に置いて、一般科目、専門科目およびその他必要な科目を以下に示す方針に基づいて編成・実施・評価する。

- 編成に当たっては、低学年では専門教育の基礎となる数理系の一般科目を多く配置し、進級するに従って専門科目の比率が高くなるようにする。また人文系の一般科目については、学年が進行するに従い専門的な内容が学修できるように配置している。
- 編成に当たっては、各科目を必修科目・選択必修科目・自由選択科目に分類し、ディプロマポリシーで定める能力は必修科目および選択必修科目で学修できるようにする。
- 編成に当たっては、演習・実験・実習の授業形態を重視し、学生が自ら手を動かして学修する機会が多くなるようにする。
- 編成に当たっては、卒業研究を本校教育の集大成と位置付け、テーマ設定・計画立案・問題解決・口頭発表・論文作成という一連のプロセスを通じて身に付けた知識等の活用力および表現力を養う。
- 編成に当たっては、学生の学力と興味に応じた学修が可能になるように、高学年では選択必修科目や自由選択科目を配置する。
- 実施に当たっては、各科目とディプロマポリシーで定める能力との対応が明確になるようにシラバスや科目系統図を用いて学生が理解しやすいように説明する。
- 実施に当たっては、学生の主体的な学修を促すため、プロジェクト教育など授業以外の機会を多く提供する。
- 各科目の評価に当たっては、評価方法をシラバスにより事前に示し、そこに記載された評価方法に基づいて実施する。
- 卒業研究の評価に当たっては、知識等の活用力および表現力を多様な方法によって評価する。
- 進級および卒業の認定については、本校が定める規程に基づいて及落判定会議および卒業判定会議にて判定している。

（専攻科）

専攻科課程では、専攻科が掲げる「Tの字型教育」（入学までに身に付けた専門基礎に関する学修成果を縦棒とし、これに立脚する横棒を専攻科課程の「複合領域教育」としたもの）により、ディプロマポリシーに示す能力を身に付けさせるために、一般科目、

専門科目およびその他必要な科目を以下に示す方針に基づいて編成・実施・評価する。

- 編成に当たっては、「Tの字型教育」の土台となる基礎力に関する科目、コミュニケーション力や人間性に関する科目を主に1年次の履修科目に配置し、やや応用的内容の科目を2年次に多く配置する。
- 編成に当たっては、国際性に関する科目を1、2年次の両方に必修科目として配置する。
- 編成に当たっては、「Tの字型教育」の土台となるべき基礎力に関する科目と、人間性及び国際性に関する科目を中心に必修科目としている。
- 編成に当たっては、エンジニアリング・デザイン教育の重要性を考慮し、問題抽出の方法や問題解決の手法を教授する内容の演習を配置する。
- 実施に当たっては、各科目とディプロマポリシーで定める能力との対応が明確になるようにシラバスや科目系統図を用いて学生が理解しやすいように説明する。
- 実施に当たっては、学生の多様なニーズに配慮して、大学や他の高等専門学校の専攻科等で開設されている授業科目についても単位互換制度を実施している。
- 特別研究の実施に当たっては、“一人の教員の思想に沿った正解提示型学習”を避けるために、複数指導方式（主査・副査制）を採用している。
- 各科目の評価に当たっては、評価方法をシラバスにより事前に示し、そこに記載された評価方法に基づいて実施する。
- 特別研究の評価に当たっては、取り組んだ課題を十分に探究・考察し、その結果を的確かつ論理的に構成・発信しているかを多様な方法で評価する。
- 修了の認定については、本校が定める規程に基づいて修了判定会議にて判定している。

*卒業後の進路状況

過去5年の進路状況（以下のリンクから確認できる）

<http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/career/2018-shinrojokyo.pdf>

過去5年の本科卒業生及び専攻科修了生の進路実績（以下のリンクから確認できる）

<http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/career/2018-shinrojisseki.pdf>